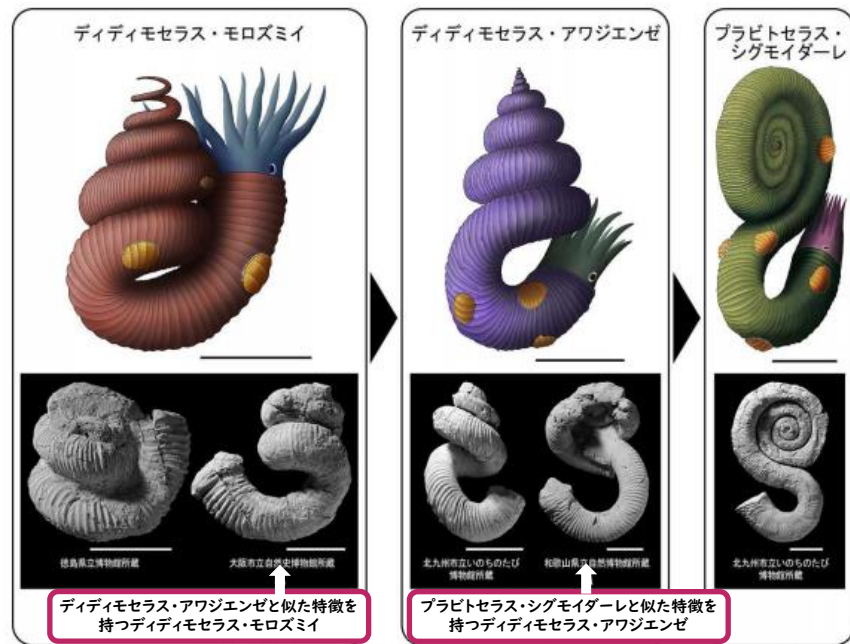
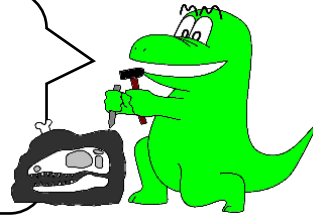


奇妙な形のアンモナイトの新種発見！！

先日、新聞やニュースでも紹介されたんだけど、複雑な巻き方をした奇妙な形のアンモナイトの新種が発見されたんだ！発見された新種は、平らな螺旋状に巻く一般的なものとは異なり、“異常巻アンモナイト”という仲間、複雑な巻き方をするんだよ！それについて、少しだけ紹介するね！！



徳島県鳴門市や淡路島などからは、日本で見つからないプラビトセラス・シグモイダーレと呼ばれるアンモナイトが産出します。このアンモナイトはS字型をした特に奇妙な形の殻をもっています。

今回見つかった新種は、この日本固有のS字型をしたアンモナイト（プラビトセラス）の進化を解明する上で大変重要なものです。

これまで、プラビトセラス・シグモイダーレが、ディディモセラス・アワジエンゼというアンモナイトから進化したと考えられていましたが、今回見つかった新種ディディモセラス・モロズミイはさらにその先祖と考えられていましたが、奇妙な形をしたこれら3種の進化過程が明らかになってきました。

※これらのアンモナイトには右巻きの個体と左巻きの個体があります。復元図は右巻きの個体で描いています。スケールバーは5cm
アンモナイト3種の進化過程（黄色く描いているのは共生する二枚貝）。

令和3年度に着任した学芸員・MTの紹介



さとう りょうせい
佐藤 凌成
れきし ちゅうせいしだんとう
歴史 中世史担当



いけだ ひろし
池田 優
MT(ミュージアムティーチャー)



かねこ しげお
金子 滋夫
MT(ミュージアムティーチャー)



まつなが ようすけ
松永 庸助
MT(ミュージアムティーチャー)



ミュージアムのタネ

縄文時代の暮らしとトイレ

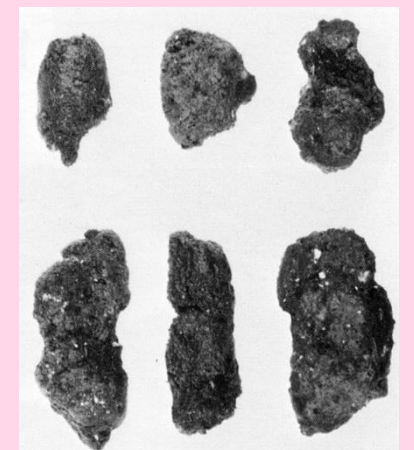
縄文時代はイノシシやシカなどを狩り、魚を捕らえ、ドングリなどの木の実は拾って食べていた、狩猟・採集を中心とした時代でした。また、研究が進んだことでエゴマやダイズなどの栽培をおこなうなど農耕もおこなっていたことがわかってきました。いっぽう、縄文時代に土器が発明されたことで、食べ物を煮ることができるようになり、飛躍的に食生活が変化しました。煮炊きすることで、食べ物に含まれている苦みやアクなどを取り除くことができ、食べられるものの種類はかなり増えました。

また、縄文時代にはこれまでの食料を求めて移動する時代から、一か所に定住して生活するスタイルが定着しました。竪穴住居を建てて複数の家族が集住する村が形成されるようになったのです。狩りや栽培などを協力しておこなうことで、より効率的に暮らしていたとみられます。

ところで、人が集まって暮らすと問題になるのが、いつの時代もゴミや排泄物の処理方法です。縄文時代の人々が食べた貝の殻や獣・魚の骨などが捨てられたゴミ溜めは、現在では「貝塚」として発掘調査で見つかります。時には地下数メートルにも及ぶゴミ溜めが見つかることもあります。

では、排泄物はどのように処理していたのでしょうか。移動しながらの生活であれば岩のかけや草やぶなど、様々なところで排泄をして、そのままにしておいても問題にはなりません。しかし集団で暮らしているとき、隣の家の近くでウンチやおしっこをすると、さすがにクサイ！と嫌がられるでしょう。

福井県の鳥浜貝塚では、湖に向かってのびる栈橋の痕跡が発掘調査によって見つかりました。そしてその栈橋の下からは、さまざまなゴミと共に、石になったウンチ=糞(ふん)石(せき)が見つかりました。縄文時代の人々は栈橋からおしりを付きだしてウンチをしていたのかもしれませんが、また、ウンチの周辺を分析すると、寄生虫などがみつかります。これにより当時の人々が食べていたものや生活の様子がわかるようになります。



れきし か がくげいん こうこたんとう みやもと かおり
歴史課学芸員 (考古担当) 宮元香織

【お知らせ】

いのちのたび博物館HP内にある、学校団体申込(一般団体申込)から「体験学習について」というパナーをクリックすると、体験学習プログラム(展示見学だけでなく、博物館で「体験」していただくためのプログラム)、ワークシート(博物館での調べ学習に使えるワークシート)、ハンズオンコーナー(館内には、化石や土器片等を実際に手に触れたり体験したりできるコーナー)について掲載しています。ぜひ、ご活用ください！